

2025年5月25日 西宮チャペル礼拝メッセージ要旨

説教題：「神にある多様性の麗しさ」

宣教師 浅井俊貴

聖書：エペソ人への手紙 4章3節

昨今、「多様性」、最近では「ダイバーシティ」という言葉も用いられているようですが、多様性に関するニュースが増えてきているように感じます。インターネットの急速な普及により私たちはさまざまな情報へのアクセスがしやすくなり、その結果、考え方や価値観の多様化が進んでいます。

私が遣わされているインドネシアは1万以上の島からなる島国であり、三百以上の民族と言語があり、国民は国が認める六つのいずれかの宗教に登録することが義務付けられている国です。そのためインドネシアの国のスローガンは「多様性の中の統一」。世界でも最も多様性にあふれている国の一であると言えます。そのようなすでにある多様性の豊かさに加え、インターネットの普及により、私がインドネシアで現在仕えている学校の生徒の多くは、日本のアニメや漫画、韓国のKpopなどの影響を強く受け、その影響は彼らの将来の進路にも大きく影響を与えるものとなっています。

また日本におきましても、職場においては性別、国籍、宗教、障がいなどの違いを尊重し、多様な人材を受け入れることを目指し、また教育の分野においては少子化と並行して「多様化への対応」が大きなテーマになってきています。今後は、子どもたち一人ひとりの背景や個性を活かす教育がより求められていくでしょう。

皆さんはこの「多様性」という言葉を聞くときに、どのような印象やイメージをお持ちでしょうか？多様性はより生活や環境を豊かにする！と感じる方もいらっしゃれば、より多くの衝突や軋轢を生むものだ、と感じる方もいらっしゃるかもしれません。このような多様化が急速に進行する今を生きる私たちは、一体多様性をどう捉え、向き合い、そして取り組んでいくべきなのでしょうか。もし正しい理解と目的意識がなければ、多様性は私たちにとって弊害になり得るものです。しかし、多様性を正しく理解し、そして取り組むことができれば、それはとても大きな力になるものです。「神にある多様性の麗しさを表すにはどのような取り組みが必要であるのか。」 本日はエペソ人への手紙を中心に、大きく三つのポイントに分けて学んでいきたいと思います。

1. 「敵意の壁は碎かれた！」（信仰の宣言）

様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。（エペソ 2:15-16）

2. 「不可能を可能に！」（へりくだりの祈り）

こういうわけで、私は膝をかがめて、天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御

父の前に祈ります。どうか御父が、その栄光の豊かさに従って、内なる人に働く御靈により、力をもってあなた方を強めてくださいますように。信仰によって、あなた方の心のうちにキリスト住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基づきおいでいるあなたがたが、すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。（エペソ 3:13-19）

「実にキリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし…」（エペソ 2:14）

「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」（詩篇 133:1 / 口語訳）

3. 「御靈による一致！」（愛の実践）

Z世代の特徴や傾向

- 「デジタルネイティブ」
- 「協力」や「コラボレーション」を好む
- 靈的なことへの関心が高い
- 教会を始めとする組織的な宗教団体を好まない
- 社会問題への関心が高い

しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。（使徒 9:27）

謙遜と柔軟の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御靈にある一致を熱心に保ちなさい。（エペソ 4:2-3）

「見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」（詩篇 133:1 / 口語訳）